



No. 25

発行所
社会福祉法人
山形県手をつなぐ親の会
事務所
山形市旅籠町
1丁目10番30号
山形社会福祉会館内
TEL 山形 6572
印刷所
K.K. 誠文堂印刷所

福祉はここらである

―再び提言します―

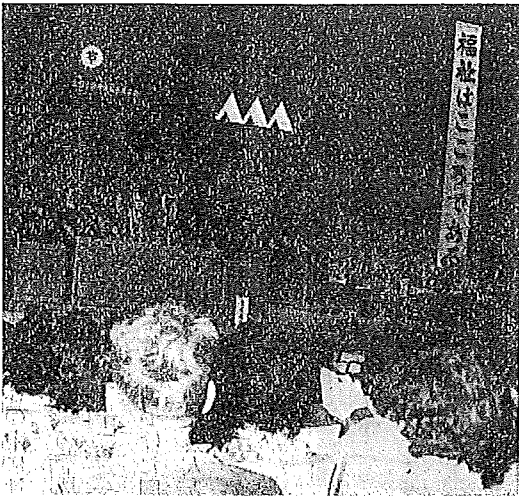
会長 中村 律

先ごろ「福祉はここらである」と提言したところ、「福祉には金はない」「など」と曲解する天邪鬼もいるらしいので、二・三の例をあげてふたたび補足しておきましょう。

全国大会の要望にもあったように幼児の教育はたいせつです。山形県でも新年度に障害児保育について予算を組んでいるのもおなじ認識にたつものでしょう。ところで、ある会員の話ですが、子どもを保育園にあずけようとしたら在籍中の保護者からつよい反対がでた。「あの子をあずかるのなら、うちの子はやめさせろ」と。まるで知恵おくれの子ども

を特別な人間のように考えて敬遠する、こういう偏見は問題なのです。こういう偏見はよわい子どもの生き

権利をふみつぶす思いがあがったエゴといわねばなりません。また、十数年来この人たちのための授産施設をつくらうとみんなで資金をつくり、心をくわいているある地域の話。たまたま学校の統合でいらなくなった校舎を払いうけて授産施設をつくらうとしたら、地元の人たちの反対で不成



大会スローガン 「福祉はここらである」

功におわってしまった。この地元の人たちは一体なにを考えているのか理解に苦しむが、知恵おくれのこの人たちにも生きる権利のあることを忘れていたのではないだろうか。このような周囲の偏見や差別意識の中では、県や市がせっかく金をかけていろいろの施策を考えたり、施設をつくっても生きた福祉にはならないと思われまます。それよりも、「大変だね、少しでもよくなるといいね」という温かい思いやりが周囲にあつたら、どんなにこの親と子は勇気づけられるでしょう。この思いやりこそ何よりも大事な福祉の原点だと思います。まさに「福祉はここらで

ある」と声を大きくしていいたいのです。

青森県のある幼稚園では、こういう親の差別意識をなおすために、あえて障害児をあずかった。その結果子ども同志の交流の中からいろいろのことが園児をおして親に伝わり親たちの態度があらたまってきたという。また、愛知県では、二人でも三人でも集って仕事をする小規模授産施設に、指導者一人分の給料を助成する、場所は個人の家でもいい、指導者は父兄でもいいという制度をつくって、現在すでに十二か所もできていくという。このように手近なところから実践をとおして直接的に間接的に問題解決への努力を積み重ねていくことも、やがて社会の共感を呼ぶことにつながるでしょう。私たちも大いに参考にしたいと思えます。一面、天童市や南陽市のように理解ある第三者によって地域民の善意によびかけるなど、あらゆる角度から社会の偏見や差別意識をとり除くためにいっそう努力し、「この子この人たちにもおなじ権利を」と主張しつづけていかねばならないとよく考えています。

栄光園だより

万世通勤寮の近況

万世通勤寮長 橋本久蔵

栄光園は昭和四十五年四月一日、日本自転車振興会、山形県その他の関係機関や県内各層の御援助と期待に支えられ精神薄弱者授産施設として花々しく誕生いたしました。

以来数々の授産科目を導入いたしました。米沢市内の事業所の温い御援助の賜物とただただ感謝の外ありません。園生と職員が一体となって

彼らの職場への進出を夢見ながら努力をつづけてきました。

昭和四十八年彼等の円滑な社会復帰のため通勤寮設置について県民生部から話があり県立民営という形で受入れることに決定いたしました、その旨一〇四名の園生にも発表いたしました。

園生は一段と真剣さを加え努力をつづけましたが、経済事情の変化のため遂に日の目を見ずにしまいました。しかし彼らの社会復帰の強い願いを何とかかなえてやりたいという

私共の願いが遂に実現する運びとなりました。それは共同募金会工藤良美氏の奔走により日本自転車振興会の補助を頂くことになったからです。

昭和五十年六月二十日総工費五、六四五万円

(内訳日本自転車振興会二、六〇〇万円、山形県一九四万五千円、市町村三〇〇万円、共同募金会三〇〇万円、米沢市一五〇万円、自己資金三四九万九千円)をもって着

工、十一月十八日緑の林の中に鉄筋コンクリート二階建のしょう洒な寮が完成しました。そして十二月一日開所。満を持して待ちつづけた園生二十四名が入寮、やっと社会人としての第一歩を力強く踏み出すことになりました。



— 万世通勤寮 —

就職先は製畳、マイク組立、紙器加工、食肉加工、建設、織物、配管工事等多岐にわたります。

いづれも彼らに対する深い理解をもたれた立派な事業場に恵れたことが幸いでした。

毎朝七時半、準備されたマイクロバスに乗車元氣一杯それぞれの事業所に向います。あれから六か月経ちました。現在雇用主の彼らに対する評価は「素直で真面目にやってくれている」とまあまあ成績です。

しかし彼らはちょっとした障害のため職場から脱落する危険をいつももっております。ある時は激励し、ある時は叱り、ある時は雑談を交しながらいつもよい相談相手、身近な相談が必要です。

雇用主の方々の研修の機会をもちお互いの情報の交換をしながら、受入体制を整備することも大事なことです。いまその準備を進めております。

一人の脱落する者もなく職場に定着してくれるようにと祈るような気持で彼らを見守っている毎日です。

栄光園に勤務して

生活指導員
佐藤美砂子

社会人として、そして栄光園の職員として早二年目を迎えました。まだ雪の深い雑木林の中を、思いを錯綜させながら未知の世界にでも入り込んでいくようなそんな気持ちで見学に来たような気がします。私にとって彼らは手にとることのない觀念の中の存在でした。でもやはり、こうして一年間を振り返ってみると何か現実と觀念とのあがきの中に自分が常にいたような気がします。まだ、私自身が未熟な上、専門的に勉強してきた訳でもないのに、いったいこの仕事を選んでそして指導員として彼らに接していきけるのかとても不安でした。でもなんとか、手探りながらも私なりに彼らと共にこの一年間を過ごしてきたつもりです。

この社会で、彼らが自己実現するまでは、まだまだ厳しすぎる現状です。こうして現場で彼らと肌をつき合せながら働く我々にとって、今一番しなければならぬことはいったい何なんだろうと改めて考えてみる

必要があるような気がします。

栄光園に勤務するまでは、何気なく彼らの存在というものをとらえてきました。でもまだ、一年間という短かい期間でしたが、私なりに、いろんな面で現実にごつかりながら教えられてきたような気がします。彼らが自己実現するのに援助ができればと思いつながら……。

栄光園に勤務して

生活指導員
大橋ひろ子

栄光園に勤務して、ようやく一年を経過しました。施設というものにはまるで縁のなかつた私には色々な面で暗中模索の一年でした。私の一年間の担当は学習でしたが、大人でもあり同時に幼児でもある園生にどの様に接していくべきか本当に手さぐりの毎日でした。

初めのうちは、話をしても反応のない園生の顔を見ると自分のやっている事が場違いの様に思え、自信をなくした事もありました。でもそうした中で、たった一言ほめた言葉が受け入れられたのか、うれしき一杯手をたたきながら学習室を一周す

る園生を見た時、私もちょっぴり、この仕事に自信を持たれた様な気がしました。

しかし、指導していく上で本当に必要な事は、園生を心から理解してやる事ではないでしょうか。いくら話しても、話しても、次の日には、もう穴のあいている障子戸を見て、そこに園生の口には表わせない心の吐け口を知らされた思いでした。

「栄光園」を見学して

最上町 小川さゆり

にわたりの卵を入れたかごを手にして、不自由な足をひきずりながら懸命に雪道を歩く二人の青年……。これは、二月一日夜放送の『ひとり立ちへの歩み』の、ラストシーンです。

私は、この番組を見て、強いシヨツを受けました。三か月もかかって育てた

学習を通しての私の仕事は彼らの生活の中から、得意(できること)不得意(できないこと)を引き出し、園生の生活に少しでも喜びを与え、又、生活上の知識を少しでも与えていくことだと思えます。今後、障子戸に表わされた園生の気持ちを、私なりに考え、まだまだ勉強していきたいと思っています。

豚が、トラックに乗って連れ去られた日、カツ子さんは涙を流して悲しむのです。『人間は悩む』という詩を書いた淳さん。『自分が生活で生きるだけ給料をとれるようになったら相手の両親を説得して結婚したい』という立派な意見をのべる戸倉さん。彼らはみな、世間の人から、知恵



相手の両親を説得して結婚したい」という立派な意見をのべる戸倉さん。彼らはみな、世間の人から、知恵

遅れと呼ばれている青年たちです。

私のたった一人の兄もそうです。兄は今、西中の技能学級に通い、楽しい学校生活を送っていますが、卒業後はどうしてよいのかわかりません。私は、母と話し合い、さっそくこの精神薄弱者の授産施設「栄光園」を見学させていただくことにしました。

米沢駅から車で二十分。とても静かな所で、広大な敷地があるのにびっくり。すぐに、機織り、マイク作りの仕事を案内していただくと、テレビで見た顔が、にこにこ私を歓迎してくれます。外に出て、豚やにわとりを飼っている小屋、たたみを作っている所、私の兄にもこれならできるだろうなあ、と思われる温室にも入りました。五千以上の、美しいお花の鉢が並んでいるのです。私は、彼らが愛情をこめて育てたチューリップとサイネリアの鉢を記念に買ってきました。

橋本先生から、いろいろとお話をうかがいました。先生は、「彼らが人間として幸福な人生を送ること、それが一番大事なのだ。」とおっしゃいました。

ここにいて、百余名の園生の方たちは、とても恵まれていると思えます。たたみ作りを指導していらっしゃる先生は、本職の方のところで、厳しい修業をなさったとのこと。

ここにきてから、四年近くも、そうしていた園生の一人が、数か月前からびたりととまって、行儀がよくなつたと聞いた時、先生方の愛情に深く頭が下がる思いで、いっばいになりました。

これからも彼らのために、どうぞ頑張ってくださいよう、心から願うと共に、私も精いっぱい努力して、きつと彼らと共に働らせる人間になりたいと思うのです。

支部だより

東根市

手をつなぐ親の会

「福祉はここらである」のスローガンのもとに開催された全国大会も盛會裡に終了されたことを心からお喜び申し上げます。会場受付で手わたされた、真心こもった折鶴を事務所にかざりながら間近にせまった第六回県大会の準備にがんばっています。

発足してまだ数年の本会であり、会員数も少なく、なかなか思うような事業計画ができず、親の会とは一体どうあるべきなのか、何をまずしなければならぬのかという疑問だけがいつも頭にこびりついて、一掃する事ができないのが現実です。会員は減っていく。会議や行事にも会員の集りが悪くどうしたものか。しかし、これも発足間もない事である

し、いつも出席してくれるAさんや市役所に来た際には必ず社協の事務局を訪ねてくれるOさんらの熱心な方々もおるので、少数の参加でも親しく、共に悩みや苦勞、喜びを語り合っていく事が必要な事であるという考えで事業を進めています。夏の親子のつどい、秋の施設見学も今では恒例の行事となり、みんな楽しみに待っております。

中村県会長さんや、小学校特殊教育担当教諭のお話しを聞いたりの研修会も実のある事業でした。これからも県大会の開催を引き受けたのを契機に、会員役員いっそう自分たちの会であるとの意識を持ってやっといこうと二月の総会で誓い合ったところでした。

県大会の準備には学校関係者、福祉事務所、婦人会、民生委員等多く

の皆さんのご協力を得る事ができ、特に教育長さんからは準備会の当初に「学校長会議でも、大会には大いに協力するよう指示したから先生方と一緒に大いに意見を出し合っていて、立派な大会となるようにしてください」と言われ関係者一同大いに意を強くして、この大会を迎える事になりました。

資金面でも市当局には特に中村会長、阿部会長が強くお願いして、何よりも大会への協力を得られたことを喜びながら、旬日にせまった大会めざし、関係者一同努力しているところです。

近年、障害児の福祉は充実してきたとはいえ、まだまだ解決がせまられていっているものが山積されている現状を考えると、この大会を機に行政はもちろん関係機関、地域住民の一層のご理解を得る事ができれば本大会も意義ある催しとなると思えます。大会の準備中に、学校の校長先生ほか十数名がごぞつて正会員、賛助会員にご加入して下さり会費まで事務局に届けて下さったご協力には本当に心暖まる思いがしました。

六月三日、さくらんぼと温泉の里東根へ皆様のお出を心からお待ち申し上げます。